

熊野神社

旧長須賀村 村社
鎮座地：館山市長須賀字裏町四〇六



祭神

伊弉册命「いざなみのみこと」
事解男命「ことさかのおのみこと」
速玉男命「はやたまのおみこと」

由緒

創建は不明。熊野速玉大神を主神とした社で、家内安全、五穀豊穡、商売繁盛、学業成就の神として崇められています。

- 例祭日：七月十四日過ぎの直近の土日
- 鳥居：明神鳥居
- 神紋：左三つ巴
- 氏子数：千三百戸
- 本殿：銅版葺神明造り
- 宮司：酒井昌義
- 境内坪数：一三〇・三坪



新築された神輿蔵



龍が施された手水舎

自慢の祭

二日間行われる長須賀祭は、一日目は神輿の渡御で、数年前から復活させた夕方のお浜入りから夜の来福寺境内での餅投げが見どころです。往時、大勢の担ぎ衆の尽きない祭りへのエネルギーから「慕れ神輿」とも言われた片鱗が今も神輿に勲章として刻まれています。

二日目は屋台の引き回しで、「ひっぱり手が主役」と考える長須賀は、大きな屋台にも関わらず広大な町内の狭い路地の隅まで引き回し、ひっぱり手の威勢のいい掛け声と太鼓の音を響かせます。平群囃子用の大太鼓、江戸系囃子用の中太鼓を使い分け、多彩なお囃子で祭りを盛り上げます。

一番の見どころは夜に行う「ぴっとこ踊り」ではないでしょうか。お酒の力か、はたまた



屋台の踊り舞台上で踊る女の子

本性なのか、大人たちが代わる代わるアドリブを加えユーモアたっぷりぴっとこ踊りを

舞います。大人も子供も観衆もひとつになり、笑い声とともに楽しい宴が続きます。このように盛大に神輿、屋台の祭礼を同時に執り行うことができるのは、ひとえに連合町内会、氏子総代会、奉賛会、世話人、商業会、壮年会および地域住民の多くの御苦労、ご協力あつての賜物です。

自慢の神輿

威儀を正してお練り、昔から伝わる祝唄「とうがね」などの伝統を持ちながらも、「屋台の祭りの歴史はまだ浅い」という謙遜、「一地域だけのお祭りだからこそ、変化を加えることができる」という言葉のとおり、旦那衆の粋が漂う長須賀の祭りは、誇りと伝統を大切にしながらも、未来に向かって今後も進化していくでしょう。



屋台引き回し

長須賀地区の神輿は、館山市内でも数少ない房州後藤流初代義光による彫刻が施された、歴史的価値の高い神輿です。その「素戔嗚命と櫛名田比売の八岐大蛇退治場面」の彫刻は初代義光の傑作と言われています。その当時の長須賀は「商業の街」として発展して

おり、多くの丁稚が働きに来ており、「彼らにも神輿を担がせてあげたい」という旦那衆の思いから、「小殿」と言われる小神輿も同時に製作されていることも驚きです。平成四年には神輿の大改修、昨年平成二十四年には神輿蔵も新築されました。



房州後藤流初代義光による神輿胴羽目彫刻



近後画

このパンフレットは、地域の方々からの聞き取りを中心に、さまざまな文献・史料からの情報を加えて編集しています。内容等につきましては、ご指摘やご意見等ございましたら、ぜひご連絡いただき、ご指示賜りたくお願いたします。

- 神社名：熊野神社
- 屋根：方形屋根普及一直線型
- 葺手：普及型
- 造り：漆塗り
- 露盤：樹型
- 棟：扇形
- 胴の作り：平屋台
- 桷組：五行一手
- 扉：前後扉
- 鳥居：明神鳥居
- 台輪：普及型
- 台輪寸法：三尺七寸
- 彫刻：後藤利兵衛橋義光
- 制作年代：明治二十六年